

第 1 回 都心活性化プランに関する懇談会 議事要旨

1 懇談会名称

都心活性化プランに関する懇談会

2 開催日時

平成 27 年 10 月 15 日（木）午前 10 時 ～ 午前 12 時

3 開催場所

メルパルク広島 5 階 「椿」

4 出席者

(1) 委員

委員 11 名中全員出席 代理出席 1 名

（谷村委員の代理として、広島商工会議所 下平 地域振興担当部長が出席）

(2) 事務局

広島県：地域政策局長、地域振興部長、都市圏魅力づくり推進課長、担当職員

広島市：都市整備局長、都市機能調整部長、都市機能調整担当課長、担当職員

5 議事

- (1) 座長の選出について
- (2) 都心活性化プラン（仮称）について
- (3) 都心における施策の状況について
- (4) 懇談会の進め方について
- (5) ワールドカフェ等について

6 公開・非公開の別

公開

7 傍聴人の人数

一般傍聴者 2 名 報道関係者 3 社

8 懇談会資料名

次第

都心活性化プランに関する懇談会委員等名簿

- 資料 1－1 都心活性化プランに関する懇談会開催要綱
- 資料 1－2 都心活性化プランに関する懇談会の公開に関する取扱要領
- 資料 2 都心活性化プラン（仮称）について（案）
- 資料 3－1 都心における施策の状況について
- 資料 3－2 広島市都心部における広島県の取組について
- 資料 4－1 懇談会の進め方（案）
- 資料 4－2 都心において想定する課題
- 資料 5 都心のまちづくり“ひろしまワールドカフェ”の開催について
- 参考資料 広島市都市計画マスタープラン（概要版）
- 参考資料 被爆 70 周年の取組
- 参考資料 広島市勢要覧

9 各出席者の発言の要旨

（1）座長の選出について

【事務局】

- ・ 議事 1「座長の選出」について、構成員の互選により座長を選出する。座長の立候補・推薦を頂きたい。

【山田委員】

- ・ 座長として塚本委員を推薦したい。都心活性化プランは都市計画に関する計画だとお伺いしている。都市計画をご専門とし、地域と連携した豊富なご経験実績をお持ちである。

【事務局】

- ・ 塚本委員を座長にという推薦があったがどうか。

— 異議なし、との声 —

【事務局】

- ・ それでは、塚本委員に座長をお願いしたい。塚本座長に一言お願いしたい。

【塚本座長】

- ・ 座長ということでご選出いただいた。謹んで、受けさせていただきたい。
- ・ これまで、実務で広島市のまちづくりに携わり、広島市の審議会などにも参加させていただいている。皆様のご意見をとりまとめて、役に立てるように、よろしくお願いしたい。

（2）都心活性化プラン（仮称）について

【事務局】

- ・ それでは、塚本座長に議事の進行をお願いしたい。

【塚本座長】

- ・ 議事について進行させていただく。ご協力をお願いしたい。
- ・ 都心活性化プラン（仮称）について、事務局より説明をお願いしたい。

【事務局】

— 資料 2 に沿って説明 —

【塚本座長】

- ・ ただ今の説明で、ご意見・質問はあるか。

— 発言なし —

- ・ 先ほど説明して頂いた活性化プランの位置付けについてお伺いしたい。本プランでは、市の基本構想、都市計画マスタープランを上位計画としているが、目標年次は被爆 100 周年である 2045 年と、上位計画より先を見通したイメージとしてビジョンを描くのか。それとも、現在の都市計画マスタープランの実現のために議論するのか。どちらの位置づけで議論を進めていけばよいのか、説明していただきたい。

【事務局】

- ・ 都市計画マスタープランでは 2030 年を目標年次としているが、この期間では都心の将来像を描くには短いと考えた。都市計画マスタープランに掲げた都市づくりの目標は 2030 年に大きく変わるようなものではない。
- ・ それを踏まえ、より魅力的な都市の将来像を描くということで、十分な期間が必要との認識で 2045 年を目標年次として定めた。

【塚本座長】

- ・ ある程度、今の計画を踏まえつつも、この懇談会は、長期的な観点から活発に議論していただきたいといった理解でよいか。

【事務局】

- ・ その理解でよい。

【塚本座長】

- ・ ただ今の説明で、ご意見・質問はあるか。

— 発言なし —

- ・ ないようなので、次の議事に移りたい。

(3) 都心における施策の状況について

【塚本座長】

- ・ これまで広島市の都市づくりでは、様々な施策がされている。委員の皆様には、必ずしも広島市について十分にご存知でない方や、何十年も広島市に住まわれている方ばかりではない。最初にそのあたりから事務局に説明していただきたい。

【事務局】

— スライドにより、広島市のこれまでの都市づくりについて説明 —

【塚本座長】

- ・ これまでの都市づくりについて説明してもらった。ある程度、理解していただいたかと思うので、これを踏まえて議論を進めていきたい。
- ・ それでは、都心における施策の状況について説明していただきたい。

【事務局】

— 資料 3-1、資料 3-2 に沿って説明 —

【塚本座長】

- ・ ただ今の説明で、ご意見・質問はあるか。

【藤波委員】

- ・ これまでのインフラ整備等の取組について理解でき、かなり成功していることが参考になった。東京でも都心は整備が進んでいるが、私の住んでいる大田区は手付かずで、木造の密集市街地が広がっている。そうした中で広島市が様々な取組が行われてきたことは敬服に値する。
- ・ 今後のことを考えた場合、資料 3-1 の図面を見ると広島駅周辺は多くの取組が動いているが、中心となる紙屋町・八丁堀周辺は目立った取組はないのか。
- ・ 県から説明があった「楕円形の都心づくりを支える歩行環境の整備」と「袋町裏通りの整備」は同じものか。また別のものか。

【事務局】

- ・ 資料 3-1 の 8 ページと 10 ページにそれぞれの取組の概要を添付している。袋町裏通りは、本

通りの南側に位置する通りで、商店等も活性化されている地域である。西国街道を軸とした地区に近いが、楕円形の都心づくりを支える歩行環境の整備とは別の事業である。

【下村委員】

- ・ 広島のことについて若干申し上げたい。紙屋町・八丁堀周辺については、袋町裏通りより旧市民球場跡地の活用をどうするかが大きなポイントである。ご存知のとおり、広島の場合は、原爆ドーム周辺の 3 時間観光で終わっているのが現状である。それを 7、8 時間滞在していただき、泊まっていただくようなパターンを考えると、一番大きな要素となる回遊性豊かな中央部を歩かせるといった視点からも、ここの旧市民球場跡地の活用が大きなポイントである。
- ・ 西国街道は、猿猴橋の復元（リニューアル）を実施中だが、それを含め、「猿猴さん」といったお祭りを行いながら、西国街道をいかに歩きやすくするかと取り組んでいる。
- ・ 西国街道の一部である仏壇通りが駅と紙屋町・八丁堀の間にあり、京橋周辺のオープンテラスや、幟町にも隠れた良い店も豊富なことから、こうしたことを発見しながら、回遊性豊かなまちづくり、この界限を活かした都心全体の回遊性の創出が重要である。
- ・ この界限を歩いてもらい、お好み村などの中心部などを歩いて平和公園まで行ってほしい。
- ・ 裏袋の整備については、中央部の厚みを増すといった意味で重要となる。また中の棚、国際通りなどもおいしい飲食店が豊富であり、そのあたりを含めて、中心部が活性化し、回遊性豊かになるよう、我々も活動していることをご理解いただきたい。

【事務局】

- ・ 資料 3-1 の 2 ページの図面に記載している事業は市が関与している事業のみ掲載している。民間の取組としては、被爆建物であるアンデルセンの建て替え、電車通りの事業者ビルの建て替えを行っている。活性化プランは、民間の取組みも含めて、明るい都心の将来像を描いていきたい。

【塚本座長】

- ・ その他、現段階で質問があればお願いします。

【藤波委員】

- ・ 下村委員から旧市民球場跡地の活用がポイントといった意見があったが、もう一つお伺いしたいのは、基町アパートの件である。居住環境の改善ということで、再整備がメインだと思うわれるが、お年寄りはもちろんであるが、若い人たちといった新しい世帯を呼び込んでいくといった建て替え等は考えていないのか。

【事務局】

- ・ 基町の再整備については、資料 6 ページに記載している。中層アパートでは外壁修繕が終わ

っており、基本的に建て替えではない。高層住宅についても、内装を撤去してきれいにするといった工事を行っており、建て替えではない。住居の全面改良として2戸を1戸にするなど、ファミリー向けの改装などは行っている。現在、市営住宅マネジメント計画を策定中であるが、基本的に今の住宅を当面利用していくことを考えている。

【野原委員】

- ・ 活性化についてもいろいろな方向性があるが、集約型都市構造を目指すといった方向性がある中で、現在、広島市の市街地において、住宅地がどのようなエリアに広がっていて、例えば、街なかに居住を誘導していくような方向性があるのか。
- ・ 都市づくりの大きな方向性として、住宅をどこに集約していくのか、国際観光拠点として、都心はどのような都心を目指すのかなど、現時点での「活性化」に対する考え方・方針を教えて欲しい。

【事務局】

- ・ 都市計画マスタープランで集約型都市構造として方向性を示しているなかで、都心や拠点地区での居住をすすめる方針を掲げている。これを踏まえて、本プランでは、都心の活力と賑わいを中心に考えつつも、住みやすい都心も踏まえて検討していきたい。
- ・ 広島市では、都心居住推進のための容積率のアップ等を実施している。近年は、都心部でのマンション立地が多く、都心回帰が既に始まっている。

(4) 懇談会の進め方について

【塚本座長】

- ・ 資料 4-1、4-2 についての説明を事務局からお願いする。

【事務局】

— 資料 4-1、資料 4-2 に沿って説明 —

- ・ 事務局としては、本懇談会の委員の皆様からも、都市機能の充実、都心の魅力向上、都市環境の整備といった観点から、広島の都心の課題、広島にお住みでない方からは全国的な動向としての課題をお伺いし、それに関連したデータについて調査していきたい。

【塚本座長】

- ・ 今後の懇談会の進め方、事務局が現段階で把握している課題についてご説明があったが、進め方についてご質問があるか。

— 発言なし —

【塚本座長】

- では、懇談会を進めながら考えていくということで、それを踏まえて、委員の方から一人ずつお話をお伺いしたい。
- 実はこの会議を進めるにあたって、いろいろと調べてみると、1971年に広島市と広島県で「広島都心基本計画」を策定している。その時点での非常に質の高い計画であるが、それがその後どのようなようになったかを含めて見てみると、時代の推移により異なった結果になっているものもあるが、その時代から計画的な都心地区の整備が検討されており、現在は、それ以降の様々な取組の蓄積の上にあることが分かる。
- 例えば、広島市では「広島市都市美計画」といった先進的な景観誘導の計画が1980年代に策定されている。また、「水の都整備構想」は最初のもは1990年代に策定され、現行の計画に至るまで、広島市の職員が情熱と努力を重ねながら様々な取組が行われてきた。その結果、河岸緑地でオープンカフェの営業を実現するなど、出来ないことの壁を崩しながら、今の広島市ができてきた歴史がある。
- 従って、これまでの広島市の都市づくりの経緯や取り組みを理解した上で、この次に何を指すのかについて検討していただきたいと思う。
- 例えば、これまでは都市美といった視点から、美観・都市景観について力を入れて様々な取組が行われてきたが、今後とも重要なテーマとなるのか、今後は違うテーマへの取組が必要なのか、といった視点からの議論が望まれる。
- 今までの説明のなかで、魅力づくりや都市機能の強化など、これからの広島市の都心の活性化を考える上での様々なキーワードが出てきたが、「活性化」に対する考え方は立場によって異なると思う。
- 今回の懇談会で話をしていくテーマについても、先ほど都心の課題といった話がでてきたが、広島駅周辺の開発が進み、八丁堀周辺をどうしようかといった目先のこともあるが、本当に広島市の都心がこれから何を目指していくのか、様々な立場の専門家の方々がいらっしゃるので、それぞれの立場からの活性化について意見を深めていくことが、この懇談会の趣旨であると思う。
- 野原委員から、都心の居住について、今の広島市の取組がどのように進められてきたかといった質問があったが、事務局には、そうしたことをある程度、委員の方に説明したうえで、その次を考えられるような資料を作っていただければと思う。
- こうしたことを踏まえ、各委員からは、広島市都心部の活性化についてどのような立場から考えていきたいかという視点や、その立場からの質問などについて、何でも結構なので議論を進めていくために、一人ずつ発言をお願いしたい。

【伊藤委員】

- 交通の面からコメントさせていただく。
- マスタープランの目標として、「世界に誇れるまち」というキーワードがあるが、交通の面から広島が世界に誇れるかを考えると、誇れる部分もあるが、頑張らなければいけないと思う部分もある。

- 例えば、世界、特にヨーロッパの街では、歩行者の歩行環境を重視する施策がとられている。歩行環境を重視する裏側には、自動車の道路空間を削減しているという道路空間の再配分が行われている。やはり、歩行環境を良くしようとすると、車をどこかでコントロールしていかなければならない。
- 自転車道の整備についても、ヨーロッパの都市ではどんどん進んでいる。先日、フランスのナントを訪れてきたが、道路の真ん中に自転車道が整備されていた。昔、地下駐車場だった場所が駐輪場としてリニューアルされている。自動車ではなく、歩行者や自転車を重視することが世界の潮流であると思うので、広島もそこに追いつける施策・方向性が示せないかと思う。
- それと、縦割りの弊害であると思うが、広島市の取組をマップで示しているが、これから共通認識をもって取り組んでいこうと思うと、市だけでなく、県や民間の取組も落とし込んで、全体像が皆さんにわかってもらえる図面をつくっていただきたい。
- もう一つは懇談会の進め方であるが、会議室で議論することも重要であるが、是非、外に出て、現場を見学する機会を設けてもらえると、より現実を見ながら議論が活発にできるのではないかと思うので検討していただきたい。

【小谷委員】

- 広島を中心部・都心部が何を目指すのか、例えばインバウンドを対象とすることも考えられるが、広島には、カープやサンフレッチェをはじめ、様々なスポーツがあり、人が集う場所がある。
- 先ほど、周遊という話があったが、イベントだけで終わるのではなく、滞在をしていただくという目的をもった活性化も考えられる。例えば、コンベンション施設をつくるといったことも考えられる。
- 住まいを対象にする、仕事を対象にする、観光を対象にするなど、いろいろな考え方があり、その中の活性化にもいろいろ目的があると思う。
- 地域ごとにテーマを絞って検討し、そうした考えをもって、皆さんと意見を交わしていただく方法もある。
- 優劣をつけていくことにはなと思うが、発想の転換によっていろいろなことができると思う。今あるものを取り替えるのではなく、今あるもの少しずつ変化させて、進歩していく方法もある。広島のまちづくりが少しでも発展していくプランができればと思う。

【佐藤委員】

- 広島の住民なのに知り得ない事がたくさんあり、勉強になった。整備・ハードの面からの計画はよく理解できたが、女性・生活者の目線から思うのは、最後の課題にもあるが、なぜ都市部に集中して人が出てこなくなったのかということ。女性が集うと街が潤うと思うけれども、人の心や思いなど、何があったら広島が魅力的なのか、委員の皆様とこれからお話をしていければと思う。
- 広島のイメージとして、「平和都市」ということを、他県の方からよく言われるが、よく考え

てみた場合、大人になって歴史について子供に話せることがあったらと思う。広島人だから広島を好きになる根本をもう一度、顧みる必要があるのではないかなと思う。

- ・ 県や市が整備を整えていく間に、私たち生活者側も一緒になって広島の魅力って何だったかということを考えていきたい。
- ・ ただ単純に、古いものを建て直すのではなく、原爆の時から積み重ねてきた歴史や、ほどよい人口の都市だから見える自然、雁木など川の周りが発展してきた由来など、いつもの都心を少し違う目線から見た時の都市構想ができればいいなと思う。
- ・ ソフト面を考えながら、ハード面の整備についての説明を聞かせていただいた。周りの女性の意見も聞きながら、生活者や女性といった視点から、これから参加させて頂きたいと思う。

【下村委員】

- ・ 塚本先生がお持ちになった計画書を、私も数年前に閲覧したことがある。「札仙広福」といった中核都市の位置付けがあるが、計画通りに進んでいけば、広島は福岡を凌ぐ街になっていたように思う。広島の場合、良い計画はたくさんあるが、それが実行できていないという問題がある。
- ・ 広島駅周辺の整備により、紙屋町・八丁堀地区が相対的に低下しているといわれているが、広島の場合は、ある程度の集積があるため、中心部はシャッター通り（空き店舗）にはなっていない。
- ・ しかしながら、全国と同じように完全なオーバーストア状態にある。府中町のイオンは増床が決まり、中四国最大のショッピングセンターとなる。また廿日市には、九州も含めて最大のゆめタウンが出来た。西風新都の石内にも新しいイオンが出店予定であり、中央部の我々も苦勞しているのが現実である。
- ・ 都心部は旧市民球場跡地の問題がひっかかる。ここをどうするのかといった問題と、先ほど出てきた基町アパートの再整備の問題。この南側の中央公園の問題。中央公園は、現在、サッカースタジアムの候補地になっていないが、いろいろな考え方があろう。丹下ラインでは、ここは競技場用地というアイデアであった。
- ・ 広島には、美術館が多くあり、美術館を含めて見てもらう所はたくさんある。
- ・ 将来人口については、これから減少していくことが推計されているが、これをカバーしていくためには交流人口を伸ばしていく必要がある。観光やコンベンションなど、広島を訪れる方をいかに増やし、ステイしていただくか。お好み焼きを食べていただいて、宿泊をしていただくことだけでも、経済効果や賑わいは出てくる。いかに魅力ある都心を作っていくかが重要である。
- ・ 宿泊者数を増加させていくためには、広島駅を中心とした広域的な回遊性を豊かにしていくことも重要な視点である。広島駅から本通を経由して平和公園までたどり着いてもらい、宮島まで行ってもらおう。例えば、神楽も非常に有名であるが、神楽を資源として修学旅行生を誘致することも考えられる。とにかく広島に1泊してもらうことが非常に大きな要素となる。

【谷村委員（代理、下平地域振興担当部長）】

- ・ 下村委員に同意である。平成 16 年に商工会議所で都心活性化の計画を策定した際、近隣都市住民に対しての大規模なアンケートを実施した。具体的には、福山・徳山・松江・松山など、広島市の商圏となるエリアの商工会議所の方にご協力いただいた。
- ・ 予算の関係もあるが、しまなみ海道の整備など 11 年が経過して環境も状況も大きく変化した。こうした変化について、広島の位置づけがどう変わったか、追加のアンケートをしていただければと思う。
- ・ アンケートとともにヒアリング調査を実施した。徳山の女性は、地元的美容院には行かず、高速バスに乗り、広島市の中央部まで美容院に通い、買物をして帰るといった回答があった。広島の中核性は、こうしたサービスを求めて広島を訪れるといったことであると思うが、こうしたデータのようなものを見てみたい。

【野田委員】

- ・ 3 点、居住の話、交通の話、観光の話をしたい。
- ・ まず、都心居住について、市営住宅等の行政が直接取り組むものもあるが、民間の誘導施策を含めて、これまでの方向や実績、計画が整理できないかと思う。
- ・ 都心には住宅だけでなく、社会福祉施設も必要である。経済原理が働くと、こうした施設は地価の安い郊外部に立地しやすいが、本当にそれで良いのか疑問に思う。都心部に住みたい高齢者の方もいると思う。都心の施設のリノベーションなど民間の誘導施策等が中心となるが、上手くタイアップして、都心に立地させるということも必要な視点ではないか。
- ・ 交通については、伊藤先生と同意見であるが、1 点だけ追加すると、紙屋町・八丁堀の来街者の相当数は自転車を含めた公共交通機関を利用して訪れている。
- ・ 逆に、郊外の大規模なショッピングモールでは、殆どが自動車で来られている。昔の我々の政策の反省ではあるが、中心市街地が衰退するのは駐車場がないからだ、都心にも駐車場をつくらなければいけないと何十年かは言っていたが、近年になり、ようやく中心市街地に人を呼びこむためには公共交通を充実させることが必要だというように方向転換してきている。
- ・ さらに言えば、自動車に依存したライフスタイルでは、都心より郊外のショッピングセンターが優位となる。普段から公共交通を使うライフスタイルであれば都心に人が集まってくると思うので、ライフスタイルの変革についても促していけたらと思う。
- ・ 観光については、一言で言えば滞在時間を延ばし、宿泊をしてもらうことが大切である。観光施設を充実させることも必要であるが、普段地元の人が利用するお店で食事やお酒を楽しんでもらうことで、結果として宿泊してもらえと思う。課題の 2 でもあるが、可能なら都心での滞在時間のデータを取り込んでほしい。

【野原委員】

- ・ 具体的に「都心活性化とは何か」についてきちんとした共通認識が必要である。
- ・ 当たり前の話であるが、全国的な少子高齢化・人口減少といった大前提がある中で、日本全国の全都市が人口増加といった意味での活性化はありえない状況がきているということを冷静に捉える必要がある。

- ・ また、集約化といっても、全体のパイを奪い合っているだけで、先に進めた都市の一人勝ちといった状況になる可能性もある。
- ・ 厳しい状況を見据えながらも、2045 年の中長期にむけて、きついけれども頑張っていかなければいけないものや、大きく目指していかなければいけないことがある。仕分けではないが、ここは大変だけれども未来のために時間やお金、労力をかけてでも頑張っていこうとするものと、運営を考えながら現実を見据えてできることから始めるものがどれなのか、見極めていく必要があると思う。
- ・ 一方で、コンセプトに立ち返りながら必要なものが何なのかを立ち返ることも重要である。1971 年に策定されたプランの話があったが、横浜のまちづくりも、1965 年に始まっており、そのときに 6 大事業（ベイブリッジ・みなとみらい等）が計画され、今年で 50 周年であり、50 年かけてようやく方向性が見えつつある。
- ・ みなとみらいは、当初、「国際文化管理都市」という目標が立てられ、グローバル（インバウンド）やカルチャー（文化創造）、（エリア）マネジメントといった現在必要とされていることがコンセプトとしてそろっていた。しかしながら、高度経済成長期からバブルの波が近づいていく中で、「オフィス街」としての短絡的な位置づけに移り変わっていった。
- ・ 外国人を惹きつける魅力ある広島ということで、日本の文化を感じたいという外国人に対しては、広島城の城下町としてのオリジン（起源）をもう少しアピールしてはどうか。例えば、城下町の中心にある広島城・縮景園・雁木などを一体的な資源として捉えることで、これまでとは違うネットワークができるのではないかな。また、平和記念公園と中央公園等を全体でうまくつないでいけば、セントラルパークのような他にはない魅力溢れる場所になると思う。
- ・ 相生通りの路面電車やバスセンターは、外からみると非常に重要な資源であると思う。待合を含めて魅力的な乗り換え空間とか、一体的なものができるバスセンターは重要なものとなる。また、交通は、移動だけでなくそこに集まってくる活動もセットであるので、ヨーロッパのまちのように、電車を降りたら魅力的な街が広がり、魅力的な歩行者空間が一体的な空間として存在していれば、相生通りのメインストリート性はさらに高まるように思う。具体的に考えつつ、連携を考えていく必要がある。
- ・ 関連するが、魅力的な都心をつくっていくためには、ひとつずつの要素をつなぎ合わせていくことが重要である。例えば、横浜では、横浜スタジアムの運営会社の記事がでていたが、近年、スポーツを核としたエリアマネジメントが議論されている。横浜公園、スタジアムをどう利用していくから拡大して、臨海公園・海・スポーツ施設等をつなぎ合わせて、単なる野球といったスポーツだけでなく、健康・スポーツ・医療介護福祉など様々な要素をつなぎ合わせて魅力ある都心を繋げていこうとしている。
- ・ この懇談会では、2045 年に向けて、どのように資源や要素を繋いでいくかを創造できれば、実りあるプランとなるのではないかな。

【平尾委員】

- ・ 活性化という言葉は、便利が良い反面、よくわからない。委員会などではよくにぎわいづくりなどと言われるが、それが何かわからないまま会議が終わることがよくある。

- ・ 今日の会議でも、インバウンドの話、観光の話、居住の話、交通の話など、様々な意見がでているが、それぞれの分野について懇談会が必要なくらい大きな話題である。これからの会議を進めていく中で、今何を話しているのか、ターゲットを誰にするかを明確にして、全体としてこの会議でどの部分を議論していくかについて適宜明確にしておく必要あるのではないかな。
- ・ 全国的な少子高齢化、人口減少が全国的に叫ばれる中で、街から人がいなくなってしまうたら意味がない。選ばれる街「広島」として、街の個性をしっかりと出していくために、広島ならではのブランドとなるキーワードが必要ではないかな。
- ・ この計画の上位計画である広島市基本構想の都市像として位置づけられている「国際平和文化都市」という言葉について、今一度、何を本気で取り組んでいくのか方向性を示すことが重要ではないかな。これまでは、国際平和文化都市という言葉はあるが、例えば隣の岡山や山口との違いを生活者として実感することがない。「国際平和文化都市」として、選ばれる街となるために、「国際平和文化都市」の中身を真剣に考え、この上位計画を言葉で終わらせずに体現できるようにしていきたい。

【藤波委員】

- ・ 時代の流れ・変化を見極めることが重要である。例えば、自転車をもう少し見直したらどうかという話があったが、東京では非常に自転車が使われている。都心の地形は起伏が大きく、自転車には向かない街であるが、電動アシストが出てきて大きく普及した状況がある。
- ・ 広島を中心部はほとんど平地であるが、少し外にでるとアップダウンがある。しかし、東京の現状を考えれば、自転車の有効性をもう一度考えることは極めて重要である。
- ・ 時代の流れということで、現在の物流環境は、広島より岡山周辺が優位であるという話について倉庫業を営む物流業者に伺った。岡山周辺にはある程度の都市が集積しており、高速道路も整っている。四国を見据えた場合も岡山が重要な物流拠点となる。
- ・ 広島について宇品など広域物流拠点があるが、こうした状況下でどう考えていくのか。中心的な話題にはならないが、時代の流れを見据えて、昔の土地の使い方、固定概念に固執する必要はないのではないかな。
- ・ 話題を変えて、広島市の人口がどう変化するかということで将来人口を見てみると、現在 118 万人の人口が計画の目標年次である 2030 年には、115 万人と 3 万人減少する。一方で、被爆 100 周年の 2045 年以降の将来人口は、109 万人と 6 万人減少し、2030 年以降に人口減少は本格化する。
- ・ こうした状況下でまちづくりを考えると 2030 年では短い気がする。被爆 100 周年である 2045 年、それ以降を見据えてまちづくり考えていく必要がある。

【山田委員】

- ・ 30 年前、はじめて広島に来たときの話であるが、日用品をどこで買えばよいか宿泊しているホテルの従業員に伺ったとき、「広島の駅周辺には何もない、バスか電車で街中（八丁堀地区周辺）に出なければならない」と言われた。広島の駅周辺は 30 年で大きく変わったと改めて

思う。

- ・ これからのまちづくりは新たなハード整備には限界がある。既存のストック（道路、緑地・河川・公園、集会所など）を、住民や事業者などを含めて、だれがどのように利活用していくかを重視していく必要がある。
- ・ 水辺のオープンカフェ等を実施している水の都ひろしま推進協議会や裏袋界限まちづくり協議会はエリアマネジメント組織の一つであると思うが、第2回以降の議論の際には、楕円形のエリアの中に、どのようなエリアマネジメント組織がどこに存在しているかを示したマップを作れたら作っていただきたい。おそらく住民や民間の取組がされていない空白地域が見えてくる。
- ・ 関連するが、民間による活動やエリアマネジメントのような考え方をもっと取り組んでいくのであれば、エリアマネジメント組織をバックアップする行政の支援施策がどうなっているのかについて整理して欲しい。県として市として、指定管理やアダプト制度、補助金制度などがどういう状況で行われているか、どのようにカバーしているのを整理した資料があれば今後の議論につながる。

【竹中局長】

- ・ 様々な意見をいただきありがとうございました。
- ・ 活性化をどのような方向性で進めていくかが議論になったが、県としては、広島市の中核拠点性を高めていくことが重要な観点である。
- ・ 広島市が大きな地方都市ではなく、「世界に誇れるまち広島」を目指すことが大切である。そのためには量だけではなく、質を高めていくことが重要であるが、質を高めていくことはより時間がかかる。そうした面からもこの懇談会では、質に関するご意見をいただきたいと思う。

【宮原局長】

- ・ 色々な課題テーマを挙げていただきありがとうございました。次回の会議にあたっては、出来る限り、ご要望のあった件について整理し、お示ししていきたい。
- ・ 広島は国際平和文化都市として、市域だけでなく、県外や海外の方からも常に着目をいただいております。そこは、今後も変わらないと思っている。
- ・ 市としては、来街者のニーズを満たし、持続的に魅力を維持していくための取組をどのようにしていくかといった視点から議論していきたい。
- ・ また、ライフスタイルの変化への対応にも着目しながら議論していきたいので、引き続きよろしく願いしたい。

【塚本座長】

- ・ 最初に話をした内容で言い残したことだが、活性化には色々な要素がある。人が集まる賑わいで活性化しているのか、都市美「美しい町並み」で活性化しているのか。シリコンバレーは「新しいビジネスが生まれること」で活性化しており、単純なインバウンドによる活性化

ではない。

- ・ 委員の皆様には、それぞれのご専門の立場から知っている都市の活性化についての戦略や、新しい都市の魅力をうみだしている取組事例など、事務局への情報提供や、次回会議での発表をお願いしたい。
- ・ 活性化は「人が集まること」や「商売が大きくなる」ことだけでない。国際平和文化都市と名前が付く広島だからこそ、他の都市にはない、色々な意味での活性化があると思う。

(5) ワールドカフェ等について

【塚本座長】

- ・ 最後にワールドカフェについて事務局に説明していただきたい。

【事務局】

— 資料 5 に沿って説明 —

- ・ ワールドカフェ等で頂いた意見は、本懇談会に報告させていただき、都心活性化プランの策定に反映させる予定である。

【塚本座長】

- ・ これについて質問等があるか。
- ・ 是非、ご参加していただきたいと思う。
- ・ 最後に何か一言ある方はお願いします。

— 発言なし —

- ・ ご意見がないようなので、本懇談会の議論はここまでとする。今後の日程等を事務局からお願いする。

【事務局】

- ・ 本日は、貴重な意見をいただき、ありがとうございました。
- ・ 本日、いただいたご意見などを参考に事務局で検討を進める。
- ・ また、本日の議事で追加の意見等があれば10月22日（木）までをお願いします。
- ・ 次回の日程は、11月24日（火）午前10時から開催する予定である。会場については別途連絡させていただく。
- ・ 以上をもって、第1回懇談会を閉会する。ありがとうございました。